



IGPC

特定非営利活動法人

母と子の医療を世界に届ける会

Initiative for Global Perinatal Care

年次報告書

Annual Report 2023



Initiative for Global Perinatal Care (IGPC)

目次

1	IGPCのミッション	1
2	理事長からのご挨拶	2
3	2024年度の活動内容	3
4	活動詳細	3
5	決算報告書	9
6	団体概要	15
7	謝辞	16



Mission

すべての母親と子どもたちが健康な社会を実現する

周産期医療の恩恵を受けている人たちは世界のほんの一握りです。
IGPCは、すべての母親と子どもたちが健康な社会の実現を目指して活動しています。

Vision

所得や生まれた国によらない平等な医療

私たちの社会には、様々な格差が存在しています。私たちは、母親と子どもたちの医療アクセスの格差をなくしたいと考えています。

低コスト・高品質な医療を実現するイノベーション

一人の医師、一人の助産師が救える命は限られています。私たちは、臨床だけでなく安価で高品質な医療を実現するイノベーションに取り組みます。

ともに学び続ける、伝え続ける

いかなる教育や経験を得たとしても、学びに終わりはありません。自らが学ぶだけでなく、人々に伝え続けることで、私たちが目指す社会の実現に近づくと考えています。



理事長からのご挨拶

2023年度は、理事長の交代やシエラレオネにおける医師不在期間の発生、政権交代に関連するクーデター未遂などがあり、IGPC活動に参加、関係されていた方々に様々な不安を与えてしまったかと思えます。そのことを心からお詫び申し上げます。しかし、皆様のお力添えのおかげで、これらの難局を乗り越えることができ、母子の支援に対する皆様の熱い思いに心から感謝いたします。

過去の経験から学び、現場、事務局、理事と定期的なミーティングや意見交換を重ね、組織としての運営になってきたと思えます。それらの結果、シエラレオネと日本の間で整形外科領域の遠隔トレーニングを開始することもでき、現地では帝王切開を再開することもできました。現場からは母体大量出血や早産児を救命できたという事案もありました。一方で退院後に亡くなっているという症例もありました。我々が現地に届けている医療が、母と子に貢献しているのは間違いありませんが、現地が持続可能なものにする必要があります。

世界情勢は目まぐるしく変化し、特にシエラレオネは最貧国であるため、遠く離れた地域で起きている紛争、戦争による物価の影響を間接的に受けて、政治経済が不安定になることもあり得ますし、危険な感染症が再興することもあります。医療という意味でも、活動という意味でも危険な場所で活動していることに変わりはありません。

人生の大切な時間を用いて参加頂いている方々がいて成り立っていることから、常にミッションを確認し、時代や環境に応じて柔軟に変化できる変容力も必要と思っています。これからも皆様と共に、母と子の医療を世界に届けることができればと思います。

母と子の医療を世界に届ける会

理事長 平川 英司

E. Hirakawa



2023年度の活動内容

今年度は、IGPCの組織体制が変革していく中でシエラレオネでの周産期医療プロジェクトにも大きな影響が走りました。2022年にハイリスク妊産婦の受入れ体制を整備しましたが、産科医不在の中でIGPC助産師達は全力で自分たちができる活動を現地スタッフと共に実施してきました。

また、小児科医をはじめとした短期派遣で関わった医師のサポートにより、今まで以上に現地スタッフの育成に力を注ぎました。学びたい意欲の高い現地スタッフの更なる能力向上に寄与するために、オンライン研修の体制も築いています。

2021年の活動開始当初は、日本人スタッフが主としてフロントラインで動いていましたが、現地スタッフのエンパワーメントにより、少しずつではありますが現地スタッフへのタスクシフトが始まっています。現地の医療を担う彼らが、最終的には自分たちの力をつけ、その力でより良い体制を築き医療を提供できるよう、IGPC日本人スタッフは支援を続けます。

加え、日本医療研究開発機構（AMED）に採択された研究活動もシエラレオネでの展開を始め2年が経過します。得られたデータの収集と分析が始められています。日本国内においても講義依頼や勉強会、SNSを通してIGPCの活動や途上国における母子保健の現状を広く伝えています。

活動詳細

- ◇ シエラレオネ周産期医療プロジェクト
 - (1) 周産期クリニック事業
 - (2) コミュニティアウトリーチ活動
- ◇ 日本医療研究開発機構（AMED）研究事業
- ◇ コミュニティ勉強会
- ◇ 講義・講演・広報活動



シエラレオネ 周産期医療プロジェクト

周産期クリニック事業

シエラレオネのボー地区にあるスンバヤ地域を拠点とした外資系企業Sierra Tropical Ltd. (以下STL)での分娩受け入れを2022年に開始し2年目を迎えました。現地STLスタッフの教育を行い、現在はIGPC医師、助産師が常にクリニックに滞在することなく、緊急時の呼び出しにて対応するという形を取ることができるようになりました。

8月以降は産婦人科医が不在となり、クリニックの業務にも大きな変化が生まれました。その中で、現地スタッフの責任感・チームワークがより強固なものになってきていることを実感しています

病棟の外来・入院・分娩・妊婦健診に加えアウトリーチ活動もある中、現地ではIGPCスタッフから現地スタッフへのタスクシフトを行い始めています。その基本として、日々の講習を取り入れ基本的な知識の向上をおこなっています。

また知識・技術のみならず、管理能力の向上も視野に入れ、リーダーとなるスタッフとの話し合いを持ちシステム、運営の改善にも力を入れ始めました。

医師が不在の期間は帝王切開ができなかったこと、地域からの搬送を受け入れることができなかったこともあり、今年度は年間で125件(2023年4月1日～2023年3月11日)の分娩となりました。

分娩の件数は増加しておりませんが、現在STLのスタッフ数は増加しており、STLにて妊娠管理を行うことで妊婦の安全性を高めることができていると推測しております。

来年度はより現地スタッフが中心となって運営ができるクリニックへ成長できるようにSTLと協働して参りたいと考えております。



対象地域の人口は3万人。内1,300人が妊産婦です

シエラレオネ 周産期医療プロジェクト

コミュニティアウトリーチ活動

2022年より近隣地区への訪問型の妊婦健診を継続的に実施し、現在4周目を終え5週目に入りました。これまでは活動拠点であるルグブチーフダム内47村落を約4-6ヶ月かけて訪問していましたが、各村落へのアクセスの問題も明らかとなり、継続的に妊婦を管理でき、短い周期で繰り返しアウトリーチ活動が行える約27の村落へ集約しました。

4週目は産婦人科医が不在であったため、ハイリスク妊婦の分娩を受け入れることはできませんでしたが、アウトリーチ活動を通して妊婦が安全に妊娠期間を過ごせるよう指導し、適切なタイミング、安全な場所で分娩できるように活動を行いました。TBA(Traditional Birth Attendant: 伝統産婆)やPHU(Public Health Unit*)スタッフにアウトリーチ活動に立ち合ってもらい、各妊婦の健康状態や訴えを共有し、今後気をつけなければならないこと、受診のタイミングなどを妊婦本人とスタッフに伝え、地域とともに妊婦を支えることを大切に、活動を行いました。

4週目のアウトリーチ活動では以前より活動の周期が短いため、PHUやコミュニティ住民とのコミュニケーションを取りやすく、各村落が抱える問題がより明らかとなりました。例えば15歳、16歳といった若年妊婦の多い村では、どれだけPHUが働きかけても避妊について理解してもらうことが難しいと話します。5週目はこのような問題を抱える村に対し、3ヶ月ごとではなく、2ヶ月ごとに回れるようスケジュールを組んでいます。また、現地スタッフに各村落の課題を捉えられるよう働きかけ、それぞれが抱える課題に沿った健康教育を提供できるように指導もしています。さらに、以前に比べ現地スタッフが妊婦へのエコー（超音波検査）を実施する機会も増えてきました。

今後は、PHUスタッフやTBAと更なるコミュニケーションを図り、クリニックで受け入れたハイリスク妊婦の経過や分娩のフィードバックを行うことも目標としています。IGPCやSTLの活動を知ってもらうだけでなく、アウトリーチ活動を通して、ルグブチーフダム内の医療や健康の質の向上に繋がるよう活動を続けていきたいと考えています。

* Public Health Unit : 公立の村落診療所:



日本医療研究開発機構 (AMED)事業

研究事業の開始：医療資源の限られた環境で有用かつ低価格で導入可能な、簡易保育器、携帯型High-flow nasal cannula、胃管を含む早産児救命パッケージの開発

2023年1月よりシエラレオネ、ボー地区の県立ボー病院にて研究活動を開始しました。本研究は、アトムメディカル社と共同開発した簡易保育器、携帯型の呼吸器による新生児予後の改善への効果の検証を目的としています。対象は主に早産児を想定した低出生体重児としています。シエラレオネにおける新生児死亡率は31/1,000 live births(World Bank, 2021)であり、世界平均が18/1,000 live births(UNICEF, 2021)、日本が1/1,000 live births(World Bank, 2021)であることを踏まえると、非常に高い水準にあることが分かります。マラリアをはじめとした感染症や慢性な栄養不良の状況の中、度重なる妊娠・出産を繰り返すシエラレオネ人女性が早産児や低出生体重児を出産するケースは少なくありません。

そのため、新生児死亡の改善には早産児や低出生体重児へのケアが必要不可欠です。今回の研究では、その中でも体温管理、呼吸管理に重点を置くことで予後改善を期待しています。

2023年11月から2024年1月にかけて、機器導入に向けてのトレーニングを現地スタッフに実施しました。基本的な新生児の病態生理、機器類の使用法、注意点を教育しました。2024年1月より機器導入を開始し、介入時のデータの収集を行っています。研究対象となる児の酸素飽和度と体温の持続的モニタリングに合わせて予後のデータを収集し、今後介入前後のデータと比較することで、機器の効果を検証する予定です。



IGPC コミュニティ勉強会

2021年6月からクラウドファンディングサイトのキャンプアイヤーでIGPCコミュニティを立上げ、月に1回のペースで学習会を開催しています。内容としては、途上国の母子保健、保健医療に役立つ内容の講義から、IGPC派遣を終えた医療者からの報告会も開催しています。途上国活動の現場で働く人、海外での活動に興味のある学生などが参加してくれています。

2023年度は、IGPC体制の変動もあり定期的な学習会開催が行えませんが、IGPCのビジョンである『ともに学び続ける、伝え続ける』を軸に、今後も学習会を開催し、学びを深めていきたいと思えます。

2023年度の学習会は以下の内容で行いました。



01

7月23日 海外助産師としてのキャリア、海外の現場で生き残る人とは
講師：小島 毬奈 先生

02

9月22日 IGPC派遣報告会（産婦人科医からの報告）
講師：竹中 裕 医師

03

11月19日 IGPC理事長からの報告 IGPCの目指す姿
講師：平川 英司 医師（IGPC理事長）

04

12月17日 東ティモールの母子保健支援へのリモートワークによる協力経験
講師：山本 嘉昭 医師（IGPC理事）

05

2月18日 NPO法人と株式会社 商人の目で見るとシエラレオネ事業のあゆみ
講師：岩淵 寛太郎 先生（IGPC理事）

06

3月17日 IGPC派遣報告会（小児科医からの報告）
講師：浦部 優子 医師

IGPC 講義・講演・広報活動

IGPCには途上国支援の経験をもつ医療従事者が複数参加しています。私たちの経験や知識が次世代の国際協力や国際医療支援に関わりたいと希望する方々に生きた声を届けたく、依頼を頂いた医科大学や看護大学などで講義を行いました。

引き続き周産期医療をベースに途上国の母子保健事情やIGPCの経験を伝えていけるよう広く活動していきたいと思えます。

看護大学における講演・講義

昨今のグローバル化の影響もあり、昨今では多くの看護大学や専門学校で国際看護や国際母子保健を学ぶ機会が増えてきました。

2023年度は以下の看護大学や中学・高校等で講演や講義を行いました。

- ◇ 2023年 4月 大和大学 看護学科学生対象
- ◇ 2023年 7月 大和大学 助産コース学生対象
- ◇ 2023年 11月 豊田赤十字看護大学 看護学部 看護学科対象
- ◇ 2024年 3月 普連土学園 中学生・高校生対象

その他 広報活動など

シエラレオネを始めとする途上国の母子保健事情や保健医療の現状を伝える他、IGPCの活動を幅広く宣伝していくために、日本で開催される国際支援や周産期医療に関連する学会に積極的に参加し、広報活動を行ってきました。今までIGPC派遣医師、助産師として参加した方々の協力でIGPCブースを出展することができました。

また、シエラレオネ事業のパートナーであるシエラトロピカル社の親会社（伊藤忠商事子会社）とIGPCが正式に医療提携契約締結したことが広く公表され、特定非営利活動法人と外資系企業が協力して地域の健康を支える仕組みづくりを行っていることを伝えました。

- ◇ 2023年7月9～11日 日本周産期新生児医学会 名古屋国際会議場
- ◇ 2023年11月2～4日 日本新生児成育医療学会 パシフィコ横浜
- ◇ 2023年11月24～26日 国際医療保健学会 東京大学



決算報告書

貸借対照表

活動計算書

計算書類の注記

財産目録

監査報告書



令和5年度 貸借対照表

特定非営利活動法人 母と子の医療を世界に届ける会

(単位:円)

科目	金額	小計・合計
【A】 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	10,992,181	
未収金	1,306,920	
流動資産合計・・・①		12,299,101
2 固定資産		
(1) 有形固定資産		0
(2) 無形固定資産		0
(3) 投資その他の資産		0
固定資産合計・・・②		0
【A】 資産合計 ①+②		12,299,101
【B-1】 負債の部		
1 流動負債		
流動負債合計・・・③		0
2 固定負債		
固定負債合計・・・④		0
負債合計 ③+④		0
【B-2】 正味財産の部		
前期繰越正味財産額		7,963,393
当期正味財産増減額		4,335,708
正味財産合計		12,299,101
【B】 負債及び正味財産合計 【B-1】 + 【B-2】		12,299,101

令和5年度 活動計算書(その他事業がない場合)

特定非営利活動法人 母と子の医療を世界に届ける会

(単位:円)

科目	金額	小計・合計
【A】 経常収益		
1 受取会費		120,000
受取会費	120,000	
2 受取寄附金		4,250,640
受取寄附金	4,250,640	
3 受取助成金等		0
4 事業収益		18,647,414
シエラレオネ民間企業連携事業	13,854,364	
研究機関連携事業	3,600,000	
その他特定非営利活動事業	1,193,050	
5 その他の収益		0
経常収益計		23,018,054
【B】 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		13,293,012
給料手当	10,403,160	
日当・謝金等	2,889,852	
(2) その他経費		3,249,058
会議費	6,511	
旅費交通費	942,410	
施設賃借料	2,730	
備品・消耗品費	1,817,176	
通信及び郵便宅配費	352,119	
広告宣伝費	0	
支払手数料	116,312	
租税公課	0	
その他費用	11,800	
事業費計		16,542,070
2 管理費		
(1) 人件費		718,490
給料手当	300,000	
日当・謝金等	418,490	
(2) その他経費		2,093,882
会議費	67,937	
旅費交通費	205,767	
施設賃借料	753,298	
備品・消耗品費	283,404	
通信及び郵便宅配費	239,156	
広告宣伝費	275,000	
支払手数料	87,271	
租税公課	38,827	
その他費用	143,222	
管理費計		2,812,372
経常費用計		19,354,442
当期経常増減額【A】-【B】・・・①		3,663,612
【C】 経常外収益		
受取利息	252	
為替損益等	671,844	
経常外収益計		672,096
【D】 経常外費用		
経常外費用計		0
当期経常外増減額【C】-【D】・・・②		672,096
税引前当期正味財産増減額①+②・・・③		4,335,708
法人税、住民税及び事業税・・・④		0
前期繰越正味財産額・・・⑤		7,963,393
次期繰越正味財産額③-④+⑤		12,299,101

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準によっています。

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
棚卸資産を所有していません。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
固定資産を保有していません。
- (3) 引当金の計上基準
該当する取引がありません。
- (4) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理
収益計上をしていません。
- (5) 消費税等の会計処理
税込方式によっています。

2. 事業別損益の状況

(単位：円)

科目	シエラレオネ民間企業連携事業	研究機関連携事業	その他特定非営利活動事業	事業部門計	管理部門	合計
列番号	5	2			3	6
I 経常収益						
1. 受取会費	0	0	0	0	120,000	120,000
2. 受取寄附金	0	0	0	0	4,250,640	4,250,640
3. 受取助成金等	0	0	0	0	0	0
4. 事業収益	13,854,364	3,600,000	1,193,050	18,647,414	0	18,647,414
5. その他収益	0	0	0	0	0	0
経常収益計	13,854,364	3,600,000	1,193,050	18,647,414	4,370,640	23,018,054
II 経常費用						
(1) 人件費						
給料手当	6,734,710	3,668,450	0	10,403,160	300,000	10,703,160
日当・謝金等	0	2,889,852	0	2,889,852	418,490	3,308,342
人件費計	6,734,710	6,558,302	0	13,293,012	718,490	14,011,502
(2) その他経費						
会議費	0	6,511	0	6,511	67,937	74,448
旅費交通費	27,859	811,722	102,829	942,410	205,767	1,148,177
施設賃借料	0	2,730	0	2,730	753,298	756,028
備品・消耗品費	1,817,176	0	0	1,817,176	283,404	2,100,580
通信及び郵便宅配費	348,855	3,264	0	352,119	239,156	591,275
広告宣伝費	0	0	0	0	275,000	275,000
支払手数料	57,114	57,570	1,628	116,312	87,271	203,583
租税公課	0	0	0	0	38,827	38,827
その他費用	11,800	0	0	11,800	143,222	155,022
その他経費計	2,262,804	881,797	104,457	3,249,058	2,093,882	5,342,940
経常費用計	8,997,514	7,440,099	104,457	16,542,070	2,812,372	19,354,442
当期経常増減額	4,856,850	-3,840,099	1,088,593	2,105,344	1,558,268	3,663,612

3. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳

シエラレオネ民間企業連携事業において、シエラトロビカル株式会社より、派遣職員の住居・食事、及び車両の提供を受けています。これら物的サービスの受入については、収益として計測・計上していません。

4. 使途等が制約された寄附金等の内訳

使途等が制約された寄附金等はありません。

5. 固定資産の増減内訳

固定資産を保有していません。

6. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

(単位：円)

科目	計算書類に計上された金額	内、役員との取引	内、近親者及び支配法人との取引
(活動計算書) 施設賃借料	756,028		50,000
活動計算書計 (貸借対照表)	756,028		50,000
貸借対照表計	0	0	0

7. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

- ・ 事業費と管理費の按分方法
東京事務所経費の全部を管理費として計上しております。
- ・ その他の事業に係る資産の状況
その他の事業(収益事業)はありません。

令和5年度 財産目録

寺定非営利活動法人 母と子の医療を世界に届ける会

(単位：円)

科目	金額	小計	合計
【A】 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
手元現金	880,041		
三菱UFJ銀行普通預金	3,224,208		
三菱UFJ銀行外貨預金(USD 45,491.92 @151.41)	6,887,932		
		10,992,181	
未収金			
STL立替費用	956,810		
AMED3月分	300,000		
江古田事務所過払い分	50,110		
		1,306,920	
流動資産合計・・・①			12,299,101
2 固定資産			
(1) 有形固定資産			
(2) 無形固定資産			
(3) 投資その他の資産			
固定資産合計・・・②			0
【A】 資産合計 ①+②			12,299,101
【B-1】 負債の部			
1 流動負債			
流動負債合計・・・③			0
2 固定負債			
固定負債合計・・・④			0
【B-1】 負債合計 ③+④			0
【B-2】 正味財産合計 【A】 - 【B-1】			12,299,101

監査報告書

特定非営利活動法人母と子の医療を世界に届ける会

理事長 平川 英司 殿

2024年4月20日

特定非営利活動法人母と子の医療を世界に届ける会

監事

私監事は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、2023年4月1日から2024年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る年次報告書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び活動計算書）及びその注記並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1)年次報告書等の監査結果

- 年次報告書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2)計算書類及びその注記並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその注記並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

団体概要

名称 特定非営利活動法人母と子の医療を世界に届ける会
英語名 Initiative for Global Perinatal Care
略称 IGPC

住所 東京都港区浜松町2丁目2番15号 浜松町ダイヤビル2階

電話 070-4155-1103

URL <http://igpc.jp>

理事長 平川 英司 鹿児島市立病院 新生児内科医長

理事メンバー 小堀 周 作 西船橋こうのとリクリニック 院長
山本 嘉 昭 聖隷三方原病院 婦人科
岩渕 健太郎 アニカホスピス株式会社 代表取締役

監事 川村 雅敏 公認会計士

設立年月日 令和元年7月8日

所轄庁 東京都

事業内容 ①途上国における産科超音波を始めとした周産期医療全般の普及事業
②途上国における早産児や呼吸障害児等の蘇生法及び管理方法普及事業
③途上国における母子保健の状況を広く発信する事業
④その他目的を達成するために必要な事業

謝辞

活動を全面的に支援してくださるSierra Tropical Ltd.,の皆様ならびに大谷様はじめDole Aisa、伊藤忠商事の関係者に心からの謝意を表します。

また、本事業報告書ならびに令和5年度会計報告の作成にあたり、終始適切な助言と丁寧な指導をしてくださいました川村雅敏氏に深く感謝します。

最後になりましたが、激動の令和5年の過酷な状況下において現地で活動してくださる日本人スタッフ及び現地スタッフの方々に心より感謝申し上げます。





特定非営利活動法人
母と子の医療を世界に届ける会
Initiative for Global Perinatal Care